

2017 年度イラン短期研修プログラム 研修報告書

東京大学医学系研究科公共健康医学専攻

桑原未来

2017 年 12 月 21 日～12 月 31 日に「2017 年度イラン短期研修プログラム」として派遣していただいた。本研修に参加した理由は、学部時に興味を持っていたイランについて自らが学び、現在医療分野の専攻に所属する自分がイランについて発信することにより、イランを含めた中東・イスラム圏に対する理解に貢献したい、そしてイランの方々との交流を通じて、日本・イラン双方の相互理解のきっかけになりたいと考えたからであり、私自身は今回の渡航がイランへ初めて行く機会であった。

研修前半は首都のテヘランにおいて、イラン国際関係学院での講義やテヘラン市内の視察を行った。イランの政治経済に関する授業としては、イランの外交政策や政治経済といった授業を受け、質疑応答の時間を通じて疑問点を解消することができた。中でも印象的だったのは、SIR の学生とのフリーディスカッションの時間である。

約 1 時間の時間をとり、日本とイラン間における経済的な機会と障害についてのテーマで議論を行った。イランの学生からは、テーマである日本がイランにおけるビジネス進出に期待していることについての議論だけでなく、北朝鮮に対する日本の姿勢や東アジア情勢の現状、さらに日本とアメリカの関係について質問や議論が活発に行われ、イラン学生の日本への関心の高さを強く感じた。



フリーディスカッション後の写真撮影

テヘラン市内の視察には、在イラン大使館員のお宅での夕食会やイラン国会、Chamber of Commerce での表敬訪問だけでなく、バザールやカーペットギャラリーなど様々な場所を訪問したが、訪問する先々で暖かく歓迎していただいた。

本研修の中でも特に良かった点は、日本・イラン側の学生同士の交流機会が多かった点である。研修中は SIR の学生がほぼ常に付き添ってくれたため、移動時や食事の際などに色々な話をする事ができた。同年代の友人と大学での勉強や生活の様子、将来についてなど色々な話をする事で、イランについて書籍やインターネットでは得られない生の考えや思いについて話す事ができたと思っている。また、日本人派遣生同士や研究員、通訳の方からも多くの刺激を受けた。



SIR の学生たちとのディナー

後半の地方研修では、イスファハーン、カーシャーン、コムという三都市を訪れ、それぞれの都市の違いやイランの歴史の豊かさを感じた。興味深かったのは、宗教都市であるコムにおいて、イスラム神学校の見学や、イスラム教の研究機関においてシーア派の概論について講義を受けた後、質疑応答をする機会を得たことである。神学校を見学しつつ進学校での教育について話を聞き、研究機関においてはイランやシーア派における自殺の捉え方について伺えたことは非常に興味深かった。

自分自身が公衆衛生学や精神保健分野を勉強しているため、研修全体を通じて、イランの保健医療分野についても折を見て質問させていただいた。イランでは医療機器市場が拡大しており、日本に求めていることとして医療設備や技術が求められていること、またイランの医療システムや、薬の過量服用や麻薬の問題といったイランの保健分野の問題について知ることができた。

帰国後、家族や友人、大学院の専攻の同期・先輩や先生とイラン研修で見聞きし学んだことについて話す機会があった。その中で、「桑原さんの話を聞いて色々な面のイランを知ることができた」「イランは危ない国のイメージがあったけれど、イメージが変わった」といった話になり、小さいながらもイランに行った自分が研修で学んだことについて発信していきたいと感じた。

また、大学院において狭くなりがちな視野が、イランにおいて様々な人と話し、新鮮で多様な考え方に触れたことにより、改めて自分は実際に現場を訪れ幅広い視野を持ちつつ研究をしていきたいという気持ちが強くなった。イランを実際に訪れたことで中東地域やイランに対してより興味関心を持つきっかけとなった。今後の研究の中で、イスラム圏における自殺の捉え方や現状、医療システムにおける地域保健師の役割について深めてみたいと考えている。

このような貴重な機会をくださった笹川平和財団の皆様、SIRの皆様に感謝申し上げます。



コムの様子



けん玉を教える日本人学生と
挑戦する SIR の学生